

「杉谷農村舞台復活に込める想い」

日吉神社氏子 陶久敏郎

私は、子供の頃今ある農村舞台が何を
する所か知らなかったし、関心もなかつ
た。と言うのも、毎年の秋祭りにこの舞
台を使って余興をしたことが無かったか
らだ。当時の記憶と言えば、氏神さんの
大きな木に巣を作っていたムササビを、
休日と言わず近所の友達と追い掛け回し
たこと位である。

その後、私が四十九歳になる今日まで
に、卓球大会とカラオケ大会、旅の芸能
一座の公演があっただけで、戦前に行わ
れていた人形浄瑠璃や歌舞伎の公演は、
戦後になつてまた一度も行われていない。

日吉神社の農村舞台は、長い間氏神さん
の木立のように、静かに何も言わず時を
刻んできたのだ。

そればかりか、秋祭り自体も活気が無
くなった。勤める人が増えたからと、祭
日を土・日に変更したけれど、過疎化や
少子高齢化の波には勝てなかった。祭り
に集まって来るのは、役目が当番の人が
中心で、お神輿も高齢化で担ぎ手が揃わ
ず、今年から台車に乗せるようになって
しまった。日本の歴史上、最も経済的に
豊かな時代が創り出した、農村文化の貧
困がここにある。

ふとしたきっかけで、私は数年前から
隣の新野町岡花・西光寺に約二百年も
続いている人形浄瑠璃の一座、中村園太
夫座の座員になっている。下手くそなが
らも人形浄瑠璃に関わっている内に、か
つて人形浄瑠璃は氏神さんにあるような
農村舞台で盛んに公演され、村の人々は
楽しみにしていた歴史があることを知っ



た。
それからと言うものの、人形浄瑠璃で杉
谷農村舞台を復活できないものかと考え
るようになった。日増しにその想いは強
くなり、ついに今年の秋祭りの清掃日に、
来年の秋祭りに人形浄瑠璃の公演がした
いと氏子の皆さんにお願いをしたら、そ
れは良いことだと内諾してくれた。この
先、山あり谷ありと思うが何とか復活し

たい。
願わくば来年の公演は、村の人は勿論、
この村を出て暮らしている人たちや近隣
の村々の人たちにも観てもらいたい。そ
して、八百年以上もの間この村で暮らし
てきたご先祖や、農村文化を守り続けて
きた先輩諸氏にも、感謝の気持ちを込め
是非観てもらいたいと思う。



阿波農村舞台の会ができて
一年半が過ぎました。この間
多くの人と出会い、そしてお
世話になってきました。会員
のみなさんと農村舞台を大切
に守ってきた地域の方々も

ちろん、人形浄瑠璃や音楽、舞踊、演
劇など様々な舞台芸術に取り組む方、
音響や照明、アナウンスなどその舞台
を支える方、デザイナーやコピーライ
ター、写真家、建築家、画家、マスコ
ミやタウン誌の編集者、大学等の研究
者など。劇団樹間舎の高津住男氏と奥
様の真屋順子さん、新内浄瑠璃の人間
国宝・鶴賀若狭掾師匠ともお近づき
になることができました。今回原稿をお
寄せいただいた大阪の原田さん率いる
塾塾のみなさんとのご縁も大切にして
いきたいと思っています。こうしたご
縁の延長で、職場の同僚の結婚披露宴
やアフリカの民族打楽器ジャンベを叩
く二人の結婚を祝う会では、青年座の
寿二人三番叟を紹介する口上をやる羽
目にもなりました。

農村舞台を通じ
て本場に住む世界
が広がりました。
文化というものは、
人と人の和をつく
り、その地域の魅
力を生み出し、地
域の活力をもたら
すものだと実感し
ています。

▼事務局担当
佐藤憲治

阿波農村舞台通信

平成16年 No.5 (冬号) 2004年12月31日発行

阿波農村舞台の会

〒770-0803 徳島市上吉野町3-22-2 佐藤方
Tel/Fax.088-655-6457 mail:info@nousonbutai.com